

## 平成28年度第3回総合教育会議

- 1 日 時 平成29年3月17日（金曜日）  
午後3時00分～午後3時45分
- 2 場 所 南畑公民館 2階 会議室
- 3 出席者 市長 星野 光弘  
委員 小野寺 巧  
委員 簗輪 菊雄  
委員 五十嵐 洋太  
委員 大久保 春美  
委員 森元 州
- 4 署名委員 委員 小野寺 巧  
委員 簗輪 菊雄
- 5 説明職員 教育部長 木村 久志  
教育部長 山口 武士  
教育政策課長 林 みどり  
教育政策課主査 馬場 規雄
- 6 事務局職員 総務部長 大熊 経夫  
総務部副部長兼秘書広報課長 水口 知詩  
秘書広報課主事 柳 茉利
- 7 傍聴者 0人
- 8 議 事  
(1) 大綱の策定について

## ○星野市長

本日は第3回の総合教育会議ということで、ご案内を申し上げ、かつ前段では、県教育局の大根田頼尚義務教育指導課長をお呼びしての勉強会ということで、あわせて設定をさせていただきました。森元教育長、そして私も昨年ご縁がございましたので、学力というポイントから、お願いをさせていただいたところ です。

私にとりましても、難しい内容ではございましたが、県の学力調査テストは、全国的にも先進的な取り組みであり、かつ小学校4年生から6年生まで、中学は1年生から3年生ということで、幅広くかつ年度を越えて、データを取りながら、一人ひとりの子どもたちの伸びをしっかりと見ていく。それを学校やクラス、先生方へフィードバックしていくという流れであります。こうしたものを、今日あらためて拝聴させていただき、また私どもがこれから平成29年度に向けて、現場としてのお手伝いを、教育委員会を主体にやっていただけるということでございますので、大変大きく期待をしているところでございます。

また今回は、「学力」に関する勉強会ということで、市内各校の校長先生にもご参加いただき、幅広く皆さんにお聞きいただけたことは、大変有意義だったと思います。内容につきましても同様に、有意義なものだったと感じています。

今日は長丁場ということで、この後は教育委員会会議がでございます。委員の皆様には長時間の会議で、ご苦労をおかけいたしますが、どうぞ本会議につきましても、よろしくお願ひ申し上げたいと思います。

## ○水口秘書広報課長

ありがとうございました。

なお、本日は、説明員として木村教育部長、山口教育部長、林教育政策課長、教育政策課馬場が出席しておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、以後の進行につきましては、星野市長にお願ひいたします。

## ○星野市長

それでは会議に移らせていただきます。

まずは、本日の会議録署名委員を指名させていただきます。会議録署名委員には、小野寺委員と簗輪委員を指名いたしますので、よろしくお願ひいたします。

本日は、前回に引き続きまして、「富士見市における教育大綱の策定」について、意見交換、議論をさせていただきたいと考えております。前回の総合教育会議におきまして、今後の策定スケジュールについての案を示させていただいておりますが、現在、事務局において大綱の素案を作成しているところでございます。

先ほどご講演いただいた大根田課長さんのお話の内容をふまえ、4月21日金曜日に予定しております、次回の総合教育会議におきまして、大綱の素案のお示しをさせていただこうと思っております。

今日は、学力、県の学力調査テスト、または全国学力テストということで、これについて、皆さんのお考えをお聞かせ願えればと思います。

大綱のキーワードとして、「人づくり」というようなことを示させていただき、教育の内容、質をしっかりとしたものにしていこうという目標、前提がございます。そうした意味からも、今日的課題と私もとらえておきまして、平成29年の教育委員会の予算の中にも学習支援等を入れさせていただいたところがございます。皆さんには、今日の勉強会を踏まえてご発言いただけましたらと思っております。

### ○箕輪委員

さすがに県だなという印象で、話の中身が非常に良かったなという印象を受けました。以前に教育委員会の定例会議で、県の学力調査に関して、どういう問題の意図だということが先生たちに知らされているのかという質問をしたときに、県からの回答も先生方にあまり詳しい内容が届いてないというものだったんですね。今日のお話で、まだ研究段階にあって、確定したものでないという状況なので、詳しい内容が届いていないのかなというように想定はしたんですが、今後会議を何回か重ねていくにしたがって、これだというのが見えていくとは思いますが、その辺の意図というか方向性というか、授業でこういうことが行われれば、子どもたちが伸びていくよということが示されることが大切だなと思いました。現時点でも、そういう方向で学力調査が行われているということを、広く徹底的に知らせていく必要があるのかなと思いました。

一方で、県教委の方向性について、県教委だよりも関根教育長の言葉が載っていたんですが、一人ひとりに確実に知識を定着させていくという点で、伸びを調査で見ながら成果を図りつつも、伸びていない子どもたちは徹底的に知識をつけていくという、もう一方のフォローをどうしていくのかということは、別の課題としてあるだろうという風に思っていますので、教育長も変わられるという話ですが、その方向性については、たぶん一緒だと思うので、その伸びの部分はどうするのか、伸びていない子どもたちをどう着実にフォローしていくのかという点で、学力の点では、やっていく必要があるかなと思います。

### ○小野寺委員

大変貴重な、有意義なお話を聞かせていただいたことに、まずは市長さんのおかげということで感謝いたします。

1点目は、私も国の言う知識、技能、基礎、基本というものが、ここまで質の高いものになっているということは、今日あらためて驚きました。計算や漢字の書き取り、すぐそういうものを思い浮かべてしまうのですが、今日いただいた資料のコバトンの問題集、確かめプリントですかね。レベル7などと書いてあったあの問題ですが、あれも、国の言う知識の基礎・基本なんだということにあらためて気づかされました。たぶん、他の先生方も、そこまで質の高いというか、きちんと読み込んで考えるものまで、基礎・基本になっているということは、まだはっきりと気づいていないんじゃないかなと思いますので、今度入っていただく学習支援員にも共通理解を持っていただき、また富士見市、学校全体で共通理解をもって取り組んでいかないと、なかなか成果は出てこないかなと思いますので、まずそれをどこかでやらなければいけないかなと思います。

それから、どうも勉強勉強と言うと、豊かな心や健康、清掃、部活動とか、そういうことは手を抜いていいのかというような風潮もあるんですけど、今日のお話で、学力向上と豊かな心の育成や健康な身体作りとか、清掃、部活動、そういうものは二者択一ではなくて、すべてが学力向上に活かせる取り組みなんだというのを伺いましたので、こういうものを教育委員会でも話をして、学力向上とその他は一体であるという意識を持ってもらうことが大切かなと思いました。

### ○五十嵐委員

内容的には、なるほど、という内容で、私自身100%理解できたかというところ正直できてない部分もあったんですが、非常に正直な講師の方だなという印象が強かったです。内容を聞いていて、すごく良いテストを行っていて、これをしっかりと各学校に浸透させていってもらいたいなという気持ちを感じましたし、印象深かった言葉が「問題をやり抜く力を身に付けさせる」というもので、1つの問題の中にもそういうのが入っているんだなというのが感じられましたし、そのやり抜く力が、我慢だったり、人間性を作り上げていくのかなと思いました。

### ○大久保委員

今日はとてもわかりやすい勉強会で感謝しています。ありがとうございます。感じたことは、学力調査の意図について、やはり県の意図が現場には浸透していないという現実が良くわかりました。そうしながらも、これからは、市や市の教育委員会の意図を、いかにして現場にきちんと浸透させていくのか。その辺を打ち破っていかなければいけないことも出てくるんだろうなというよ

うな気がします。私は教育の専門家でもないですし、学校現場のことを良くわかっているわけではないですが、往々にして、校長先生の力量とか、個性とか、そういうところで、信頼という言葉に置き換えているのかもしれないけども、深く介入できないようなものもあるのではないかなと、そんな気もちよつとしています。いずれにしても、人づくりは、先生の指導力も上げて、人間性も含めて、幅広い指導力を持っていただくような、しっかりした取り組みが今、求められているのではないかなと思いました。

### ○森元委員

私もこれまで、県の学力テストとか、全国学力テストの研修はいろいろ受けてきたんですが、やはり基本は県の学力テストの方が、子どもたちの経年変化が見られるので、市の教育委員会としては、これをさらに突き詰めていけば、結果として、全国学力テストにも反映していくのではないかなと感じました。そして特に、高い低いという子どもの結果に物差しを当てるのではなくて、前年度の指導で、一人ひとりの子どもがどれくらい伸びているかという視点が大切なところであり、その伸びというところは教員の指導力だとか、資質だとか、教材も含めての研究でありますので、市としては、先生方お一人お一人の指導力、人間力というものをどう高めていくか、それをこの検証の結果に活かしていくことができるのではないかと思います。今日はせっかく、県の課長さんのお話を聞きましたので、教育委員会としては、すべての教育に携わる教員に、このことをどう徹底していくかということ、もう一度考えていかなければいけないのかなと思います。

### ○星野市長

県の学力テスト導入時も、県議としていろいろ説明を受ける中で、国の学力テストとは大きく違いますよということ、さらには、日本でも有数の調査分析をする方々へデータ提供をしながら、しっかりと研究していきますということ、またそれを次は各市町村、教育委員会、小学校中学校へ広めていきますということ、その流れは頭では理解しておりましたが、今日、県の課長から報告、説明を受ける中で、より鮮明になっていきました。あとで、聞きたいことがひとつあるんですが、以前より、学力という物差しをひとつポイントとして上げるんだということを申し上げてまいりました。それは県の学力テストの取り組みを、しっかりと富士見市にも取り入れていく、いち早くフィードバックしていくということで、森元先生にお願いしたり、県の関根教育長さんと少しやり取りさせていただく中で、富士見市と県の教育委員会としっかり繋いでいくという想いでおりました。先ほど戸田市が例として出されていましたが、戸田市も

教育では先進的な取り組みをされていて、直接的にデータでやり取りをしたりだとか、そのようなことが行われております。私としては、そういう関係を、富士見市、富士見市教育委員会と県の教育委員会とを繋げたいと思っておりますので、今日は平成29年度に向けていい機会を得たと思っております。

少し懸念していると言いましょうか、どうしても学力テストですから、県平均が国の調査を下回っているとか、そこに対して、周りの皆さんも、親御さんもフォーカスを当ててるんですね。ところが、今日の内容を聞く中では、やり抜く力だとか、学習をする前にプランを立てて勉強しますか、とか、そういうものを問いかけることで、子どもたちが気付くんですね。年1回あの調査をすることで、いわゆるクラスの中でトップでいる子どもたちだけではなくて、真ん中からちょっと下くらいのお子さんたちに、どんなふうにしてあげたらいいのかなとちょっと思っていた時があるんです。どうしても点数の良い子たちにフォーカスが当たってしまう、そうではなくて、これから頑張らなければいけない子どもたちに光を当てなければいけない。それは先生方のご努力に期待するところなんです。そういった意味からすると、学力調査テストと、現実の子どもたちのギャップを何とか埋められないだろうか、または真ん中から下くらいの子どもたちを、スッと上げてあげるにはどうしたらいいだろうかということをジレンマとして思っていたことがありました。しかし、今日お伺いする中で、そういった部分にも、しっかりと光が当てられ、手が入るだろうと。そのキーは、先生方のご指導にあるのだろうということも、ある意味確認はできました。ですから、この調査を、県と協力するという体制で、アドバンテージがありますので、このアドバンテージを有効に使っていただければと思います。

そこで、大綱として、ということになるのですが、子どもたちが先生との関係やクラスの中での関係だとか、勉強に取り組んでいけるという先生方の指導力の向上や環境、哲学とか方針とかそういうことになってしまうんだと思いますが、人づくり、学力もしっかりクローズアップするということになるわけですので、言葉として難しいところもあるんですが、そういうものを大綱の中に表現をしたいなと思っております。

そこで、確認したいのが、今回、県の教育委員会と富士見市の教育委員会がこういった繋がりを持つことができましたので、具体的にどんなことが、県と富士見市の間であるのか、どんな支援があり、どのように逆に私たちがフィードバックできるのか、説明いただけますでしょうか。

## ○山口教育部長

来年度から、4年間の計画で、市内の小学校5校、その5校から進学する中学校2校、これは国の教育政策研究所が、学校の状況を見て指定してきたんで

すが、この7校が協力校として、全国学力テスト、埼玉県学力テストに加えて追加調査をいたします。それが今のところ、年度末の3月に、毎年4年間、調査をするということなので、その結果分析が返ってくるのが年度明けてということになってくると思うのですが、先ほど戸田市の例でご説明いただいたように、私どもが協力したデータが、私どもに返ってきますので、分析を見て、改善すべき点がより鮮明になってくるだろうと。または私どもが取り組んでいることの良い点も、鮮明になってくるだろうと。それらを見て次の施策に活かしてまいりたいと考えています。

### ○星野市長

ありがとうございました。今日は、学力向上というポイントで、勉強会をさせていただきました。大綱との関係の中で、皆さんの考えるところで、お言葉として、アイデア、ご意見ございましたらお願いします。

### ○箕輪委員

学力という言葉が、今までの流れですと、アウトプットできるペーパーでの能力という図り方だったと思うんですが、小野寺委員長が言ったように、変わってきている、その変化をふまえた、21世紀型の学力として教育大綱の中で持っていくときに、どういう表現というか、それを全体に浸透していくために学力とはこうですよというものを打ち出していくことが、かなり大切になっていくのではないかなと思います。2020年から大学入試が変わると言われているので、それに向けてすでに準備している学校、例えば、かえつ有明中学高等学校あたりが取り組んでいるというのは、石川一郎さんという方の本を読んで、そんな方向もやっているというのも知ったところではあるんですが。たまたま今日の新聞を見ていて、個別指導塾のチラシで、点刻みで何点アップしたというそのレベルの学力という把握しかされていないところがありました。当面はそれで試験が行われるのでやむを得ないにしても、そういう中で、2020年に向けた準備を、どのように今の中学生あたりに、市としての方向性を打ち出せるのか、ということがすごく大切になっているかなと思います。大綱の中でこういう構成がうまく打ち出せればいいかなと思っています。

### ○星野市長

今日いただいた資料でいくと、14ページの上の項目で、分析結果を踏まえた今後の指導過程の方向性ということも、例えば、問題解決的な学びの実践を進める、アクティブラーニングですね。正直言って、アクティブラーニングについては、何校か高校なんですけども、去年おとし、視察をしてまいりまし

た。県立の上尾にある高校とかですね。これがアクティブラーニングかという印象でした。大根田さんが言っていました、そういう班を作って、議論をするというのは私も経験があります。特に面白い先生で、歴史の先生だったんですが、何で太閤検地をやるのか考えろというような、歴史の中でもアクティブラーニングをやると。ただ、経験から言って、懐疑的でもあったんです、アクティブラーニングという手法に。でも、データの的には、効果があるものだと。またそういうものを通じて様々な教科でも汎用ができるということですよ。ですから、また新しい考え方や、箕輪先生がおっしゃるところが、富士見市が大綱を策定する視点として、良いのではないかと、私もそういうふうに考えます。

### ○小野寺委員

同じ内容になるかもしれませんが、やはり学力というと点数というふうに行きがちなので、その考え方を深められるような表現が無いですかね。「伸び」というところをうまく使えないかなと思うんですが。

### ○星野市長

私も言いたかったのは、問題を解決する、確かに算数や数学や国語もそうなんですが、この間ネットで見ていたら、新入社員が電話に出られないと。電話に出るのが怖いんだそうです。だから、問題解決なんですよ。いろんな場面場面、科目科目で、グループを作って、それに対して意見を言い合い、そこから解決、正解を導き出すということなんでしょうけども。もともと、今の子どもたちは個々としての能力みたいなものは、私たちが子どもの頃から比べれば、情報も多いですし、ある意味の経験は積んでいるんだけど、人間的な力みたいなものの伸びが無い。アクティブラーニングみたいなものは、人と、友達と関わり合いながら答えを出していくという面で、手法として必要なんだと感じたりしています。

### ○大久保委員

今日の勉強会でちょっと引っかけたところがあって、「非認知能力」という言葉がありました。「非認知能力」ってちょっと違うんじゃないかなと私は思ったんです。山口部長が質問された「自己効力感」なんかもそうなんですが、自制心とかそういうようなものは、もともと自制心とかをつかさどる脳の働きであるわけですよ。そういう脳の働きがあるけれども、なかなかそれがうまく育っていない状況なんだと思うんです。前頭葉とかそういうことですね。ですので、「非認知能力」という言葉を使って良いのかなというふうには思ってい



ます。そういうところを、この12ページのところも、うまく育てていく、小学校入ってからですね。本当はもっと前からなんですけども。そういうひとつひとつをうまく育てていく、さっきの電話に出られないというのもそうなんですけども、コミュニケーションを含めて。どういうふうにしたら、学力向上をバックアップできるような、基本的な人間の力を育てていくことができるのか、それがカギなのかなと思っています。

### ○五十嵐委員

やはり、学力向上の中に、人間力だったり、生きる力が含まれてくるのだと思います。生きてることは学ぶことだと思いますので、良い言葉に代えて、凝縮した言葉に代えていただければ伝わりやすいのかなと思います。

### ○森元委員

今回作るのは、大綱ですから、学力という点も含めた、例えば、自分の良さや可能性、能力に気づき、伸ばすという視点で見えていけたらいいと思います。教育振興基本計画の中には、もちろん学力、体力という部分も入ってきて良いと思うんですけども、市長さんにお示しいただく、命を含めた4つの柱であれば、子どもたち一人ひとりの良さとか、可能性とか能力とかに気づくとか、そういう柱にすれば、学力というところも網羅していく可能性があるのではないのでしょうか。

### ○星野市長

ありがとうございます。今日の大根田課長さんの話を聞いて、いろいろご意見いただきました。いただいたものを、エッセンスとして散りばめながら、1回目の素案へ結び付けていきたいと考えております。

それでは、今日もう1枚お示しをさせていただいております、大綱策定スケジュール（案）について、事務局から説明をさせていただきます。

### ○秘書広報課柳主事

お手元の資料、富士見市教育大綱策定スケジュール（案）をご覧ください。

下の段の真ん中、本日、3月17日ですが、先ほどの第1回勉強会、そして第3回総合教育会議を開催させていただきました。本日の講演内容、皆様のご意見をもとに、次回の総合教育会議に向けて、事務局にて、大綱の素案を検討、作成させていただきます。次回、4月21日の平成29年度第1回総合教育会議では、その素案をお示しさせていただき、討議・協議をしていただく予定です。その後、5月、6月を目途に、講師の方をお招きして、第2回目の勉強会

を開催したいと考えております。テーマは「命」についてということで予定しておりますが、詳細は決まり次第お知らせいたします。そして、その講演の内容をふまえて、事務局にて、大綱（案）の作成に入ります。7月、8月に第2回総合教育会議を開催させていただき、そこで大綱（案）をお示しする予定です。委員の皆様のご意見をもとに最終調整に入りまして、9月に開催予定の第3回総合教育会議にて、最終審議、策定という流れで考えております。

### ○星野市長

それでは、本日予定しておりました協議事項は終了させていただきます。貴重な意見交換ができたものと感じております。ありがとうございました。

次回の総合教育会議は4月になります。またその後の勉強会等も、ただ今事務局から報告させていただきましたとおり、またゲストをお呼びして、勉強させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

大綱につきましては、市長部局と教育委員会とが一体となって、教育の施策を進めていくという柱になりますので、しっかりと作り上げてまいりたいと思いますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

それでは、本日の会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

上記会議録の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

平成29年4月21日

会議録署名委員 市長 星野 光弘

委員 小野寺 巧

委員 箕輪 菊雄